

二〇一〇年度 協会新委員揃う

二〇一〇年度、74回展開催をめざし以下の体制で臨むことになりました。会員各位のご理解と協力をお願いいたします。

記

◆委員長 橋本裕臣

◆副委員長 渡辺恂三

” 尾埜行男

◆代表委員会

絵画／佐々木宗實・屋嘉部正人・千葉文隆・山口都

彫刻／上野良隆・奥田真澄・古川武彦・酒井良

SD／片岡葉子・杉田文哉・田中遵

◆合同委員会（*印はチーフ）

◎会計委員会

絵画／竹内一・眞野眞理子 彫刻／椎名良一・*永津守 SD／吉田淳子・野口育郎

◎図録委員会

*菅沼光児

〔図録担当〕絵画／*菅沼光児・村山容子・藤田邦統・高堀正俊 彫刻／久保制一・岩間弘 SD／二井進・下山肇

〔目録担当〕絵画／中村修二 彫刻／宇多花織 SD／*二井進

〔広告担当〕絵画／間中敏子 彫刻／田中実 SD／*山口和加子

◎IT委員会

絵画／*秋葉直樹・阿曾沼明 彫刻／柴

田正徳・河西栄二 SD／白川隆一

◎広報委員会 *林純夫

〔広報担当〕絵画／*林純夫・杉野和子 彫刻／鈴木武右衛門・川村兼章 SD

／金子武志

〔PR担当〕絵画／林純夫・*杉野和子 彫刻／川村兼章 SD／金子武志

〔会報担当〕絵画／小島隆三 彫刻／*大田雅代 SD／中野威

〔HP担当〕絵画／阿曾沼明 彫刻／吉原和夫 SD／*金子武志

◎美術館担当委員 絵画／矢澤健太郎・樺山祐和 彫刻／酒井良・渡辺尋志 SD／山口和加子・*雨山智子

◎受賞作家展委員 絵画／松木正代・桜井陽子 彫刻／宇多花織・吉原和夫 SD／*佐伯和子・雨山智子

◎慶弔委員 絵画／*福島修子・馬縹紀子 彫刻／小川幸造 SD／山下勘太郎

◆特別委員会

第75回記念展準備委員会

絵画／樺山祐和・*小島隆三・矢澤健太郎 彫刻／大田雅代・大野春夫 SD／佐伯和子・谷浩二

◆美術団体懇話会

絵画／屋嘉部正人 彫刻／北郷悟 SD

／*白川隆一・佐伯和子

◆会計監査

絵画／白井恵之輔 彫刻／雨宮透 SD

／森史夫

〔事務所員〕矢野淑子（月・水・金）

「あいさつ」



委員長 橋本裕臣

第74回展は新美術館に移って4年目となります。少しずつ新しい空間に慣れ、団体展として充実した展示会場を示すべき時期となったようです。

しかし、団体展の持つ様々な問題がいよいよ顕在化したのも事実です。これら問題をどう乗り越えるか努力してきましたが、これからは、団体展だからできること、団体展だから効果や実りが豊かになる活動とは何かを模索した方が良いのではないかと考えます。

もしかすると、自分の作品は、この会だから発表できるのであって、外の世界では通用しないのではないかと？ そのような不安を抱くのは、私だけではないのではないかと思います。

団体展とは、このような不安を各人に喚起するのにもまた意味のあることです。出品者は、制作活動のひとつの「場」として団体展をとらえ、作品を通じて戦い、理解しあうことが大切なことだといえます。

来年は75回の節目を迎え、団体展のあり方を考え、より良い発表の場となるよう努力したいと思います。

受賞作家展

絵
画

会期：2010年2月15日(月)
～2月20日(土)
会場：銀座井上画廊



◀ 甲斐美奈子
きらめくI
162.0×130.3cm

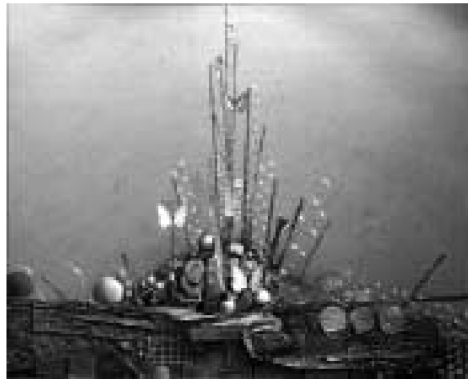
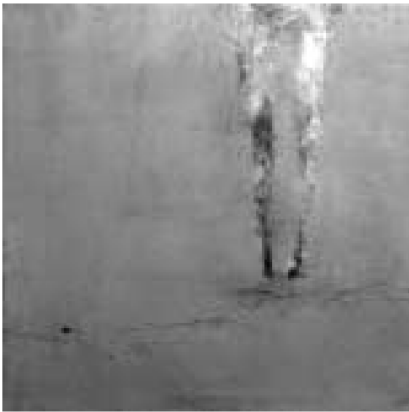


▶ 松木義三
子供の時間II
116.7×91.0cm



▲ 田村研一
WONDER STORIES 5
130.3×162.0cm

▼ 松田奈那子 プール
60.6×60.6cm



◀ 高橋正樹 遙かなる継承
130.3×162.0cm



◀ 木方立樹 Column
40×40×220cm
イチヨウ・木・その他



◀ 吉村維元 bimbo
50×50×113cm テラコッタ



▲ 中谷 聡 時のカプセル・A 31×40×30cm 小松石

彫
刻

会期：2010年2月15日(月)～2月27日(土)
会場：ギャラリーせいほう



▲加藤裕之
森へ
67×37×21cm
樟



▲上松和夫
雲だ雲
80×140×150cm
鉄



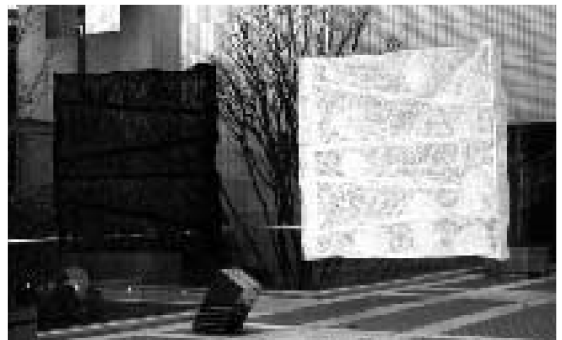
▲増井岳人
Kind gravity よりトルソ
70×50×250cm 鉛



◀伊藤 順
ハチス2009#2
300×180×40cm
(木材)

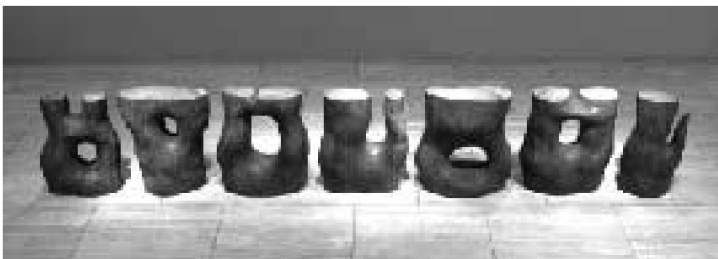
スペース
デザイン

会期：2010年1月8日(金)～1月13日(木)
会場：建築会館ギャラリー

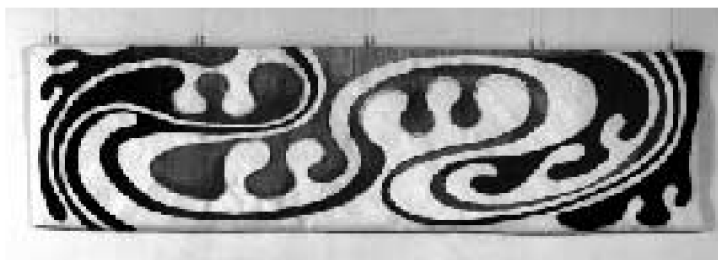


▲高松恵子 光と影
80×80×10cm
(チュールレース・紙紐・テグス)

▼大石 文 RAIN FOREST II 350×50×30cm (木材)



▼若松美佐子 ふーむ 360×100×3cm (絹糸・麻糸・絹布)



▶立花克樹
Life connected
80×130×80cm
(木材)



新制作 生みの親 育ての親 <4>

絵画部会員 荒井茂雄

皆さん、こんにちは。今回も創立会員の想いからスタートします。

◇雑感

伊勢正義

「自分はいま何の粉飾もない自分をありのままに振舞ひたいと希つてゐる。あくまでも人間らしい人間でありたい。人間はいかにこの粉飾のために多く禍されてゐることだらうか。(中略)」

眞の藝術家にとつて社会的地位や名聲に何の價値があるであらうか。止まざる矛盾の克服と混乱の整頓と、絶えざる追求を通して作品の中に高揚された自身身の高い人間性を、永遠性を創造せんとする一生の願望こそ、我々の眞の願ひではあるまいか。單なる社会的名聲や利慾を事としてその藝術的生命を失つた作家の如何に多いことであらうか。これはあまりにも悲惨な事實である。(中略) 虚飾なき眞實な生活のうちに追求され



てゆく仕事こそ、我々の持つ唯一の自由であり喜びでなければならぬ。眞摯に追求されてゆく仕事と生活のうちに、そこに大いなる喜びと驚きを見出すことが出来るであらう。この喜びと驚きこそ、我々の藝術の新しい發見を齎すものであり、熱情であり、發展であることを忘れてはならない——と述べ、外界にまどわされることなく、自己に忠実に、想うままの自由に仕事をすべきであることを伊勢先生は力説しています。

~~~~~

小磯先生が、学生の頃、ちょうど関東大震災のあつた夏、朝鮮の伯父の農場に遊んだ思い出と、当時の画壇の変化、作品への思いを図録1号に綴っています。牛のスケッチばかり描いた一冊のスケッチブックのこと、それにまつわる親類の娘、絵の好きな女学生のことなど(前略部)に続いて——

\* \* \*

◇朝鮮の思ひ出

小磯良平

「(前略) 朝鮮も十三四年前と今とは私の眼が又ちがつて來てゐるから再び行けばもつといふだらうと思はれる。林檎や桃の大きな島、農場の入口から長いアカシヤの並木道、それをガラガラの二人乗り馬車で馳け込むと廣場があつて、數百

の白色レグホンがきつと散つてゆく大きな農具小屋の内部は大農式の耕作具が壊れるまゝに積あげてある、といった工合、ロシアやフランスの地方貴族の農場の名残を想像出來ると思つて當時學生だつた私はこの空気を大變すきだつたものだ。

それよりも或日自轉車で隣り村まで出かけた時、朝鮮の地方の川は御存じの様に平素は河底が車馬のためにコンクリートで路がつくつてある。その日雨が降りて少し淺く水が流れてゐた。そこに通るかゝつた半島の老婦人と若い婦人とがあつた。やがて老婦人は靴をぬいで若い方を脊に負つて淺瀬を涉つた。年寄りはお付きだらう。その若き婦人の麗しき事一寸すくない。今でも明瞭に印象に残つている。(中略)

今だつたらもつと大きな目的でもつて朝鮮でモチーフを探したかもしれない。きつといふものを發見し收穫して歸つたらう。その自信はある。と云ふ風に私も大分大人になつた。その時分に比較すれば畫壇にも随分變化があつた。時代的色彩がうんと變つた、何もかもひつくりかえつてしまつた。小學一年生が突然二十一の婦人に變化しても一寸も不思議ではないわけだ。しかし日本に於てはすくなくともこの事だけは云へると思ふ。つまり畫壇の動きが活發すぎて油繪本來の目的への發展と云ふ方向での動きは如何だらう。こゝ十年決して無い事は無いが、いづれが主、いづれが従であるか、日本

の歴史をかへり見てその必然性にとほしい理由がないでもない。私はこう解釋してゐる、と云つて誰でも考へてゐる。くあたりまへの事であらたまつて云つたら可笑しい位の事だがまあ熱をあげて元氣を出すんだ。それは歐洲文化の完全な直釋が出來ない事に考へおよぼして見る。

醫學にしても科學にしても日本人には完全には直釋し得てゐるが藝術においてはそれはゆかない。これは根強い人種的な生活感情、又面白く考へれば地球の反對側に住む日本人、如何にラチオや飛行機が發達しても、歐洲人がピカソのタブローから感じるものと日本人がそれから感じるものとはまだまだすこし異なるものがある。又異つてゐていゝ。七十年の歴史より持たない日本の油繪人はそのまゝ日本的に發展するだらうし、又それでいゝわけだ。今後百年もたれば發展するか没落するか相當の何等かの型になつてゐるだらう。日本ばかりが畫壇的にゴタゴタうごめいてゐるのではないらしい。ものゝ本にも人の話にもフランスだつて随分みにくい方の運動はあるらしい。一部のいゝ畫家もそこを通りぬけてケロリとしてゐるんでみがかがつかつてゐるんだ。日本も皆さん大いにもまれるんだ。楽しんで清くなんて虫がよすぎる。大いにゴタつくべしだ。いかにみくちやになつてもいゝ繪は矢張りいゝのだらうと思ふ。朝鮮の思ひ出が脱線したが近頃は何の話をしても必ずこゝに落ちてくる、が昨日

## 74回展応募規定 要約

も友達と話してゐて終にこの話が出て来たので、もう繰り返すのはいやになつたから止そうと云つて話を他にうつした。そうすると大變氣持がさつぱりした」と。

前文は文学的表現で詩的風景を捉えて當時を懐かしみ、後文は、平穩無事の波立たずでは人間が創られない、良い作品も創れない、厳しい変化が世を、人を、作品を創つてくれる、荒波に向かつてこそ大海が開けることを、情熱を持って語っています。



会報No57から掲載の、創立会員のそれぞれの想いは、猪熊先生から始まり今回の小磯先生で収まりました。

「新作は創立当時から熱狂的なファンが多い」と創立会員から聞いたことがありますが、まさしく熱狂的ファンの一例が図録2号に掲載されていますので、次回はそのから入りたいと思つています。それでは次回でまたお会いいたします。(伊勢先生の文章は図録3号より掲載しました)

◇展覧会名称 第74回新作展  
◇会場 国立新美術館  
東京都港区六本木7-22-2

◇会期 10年9月15日(水)～9月27日(月) 10時～18時(入場は17時30分まで)  
但し金曜日は20時まで(入場は19時30分まで)

◇搬入受付 9月1日(水)・2日(木)  
◇搬出 9月11日(土)・12日(日)

選外作品 9月28日(火)・9月29日(水)  
展示作品 9月28日(火)・9月29日(水)  
※搬入受付・搬出時間ともに10時～17時

◇陳列 9月14日(火) 10時～17時  
◇撤去 9月27日(月) 14時～

### 【絵画部】

一般作品審査

○作品サイズ 150号Sまで。

D(厚さ)30cm以内。

○応募料 1点につき1万円、以後1点増すごとに5千円。(点数制限なし)

小作品審査との併出はできない。

小作品審査

○作品サイズ 20号～80号Sまで。

D(厚さ)30cm以内。

○応募料 1点につき1万円、以後1点増すごとに3千円。(点数制限なし)

一般審査との併出はできない。

データ画像審査

○応募資格 1980年以降生まれの方。

○作品サイズ 80号～150号Sまで、D(厚さ)30cm以内で2点以上。

○応募料無料。入選の場合は1万円必要。※データ画像審査のみ応募締切8月18日(水)、入選発表8月24日(火)。

詳細はリーフレットまたは新作公式ホームページを参照のこと。

### 【彫刻部】

一般作品審査

○作品サイズ

単体作品の場合

H280×W300×D200cm以内。

組作品の場合

H350×W300×D250cm以内。

○作品重量

室内 1点の総重量2tまで。(床面積

積に対しては1.5t/m<sup>2</sup>まで)

野外 1点総重量5tまで。(床面積

に対しては2t/m<sup>2</sup>まで)

※但しひとつのパーツの重量は3tまで。

○搬入 作品が規定を超過した場合及び

危険を伴うと判断された場合は搬入を

受け付けない。

○応募点数 制限なし。

○応募料 3点まで1万5千円、4点目

以降は1点につき3千円。

データ画像審査(昨年より新設)

○遠隔地からの出品者を対象にデータ画像審査を実施。

提出期日、応募料、形式等の詳細は、

別紙または新作協会公式ホームページ

ジを参照のこと。

### 【スペースデザイン部】

空間に関するあらゆるデザイン作品、

(実物、実験的作品、写真、模型等)を対象とし、次のA・B2部門を設ける。

A 一般作品審査

○作品サイズ

床面展示作品 占有床面積2.5m<sup>2</sup>以

内。

宙吊り作品 投影面積2.0m<sup>2</sup>以内かつ

最大長辺2.5m以内。

壁面展示作品 幅2.5m以内。(展示

会場の壁面の高さは4.8m)

○作品重量

床面展示作品 1.5t/m<sup>2</sup>まで。

宙吊り作品 200kgまで。

壁面展示作品 幅1mにつき50kgまで。

○応募点数 制限なし。

○応募料 1点につき1万円、以降1点

増すごとに5千円加算。(前記作品サイ

ズが1点の基準となるので、それを越

えた場合は2点分以上の扱いとなる)

B ミニアチュール作品審査

○作品サイズ W35×D35×H10

0cm以内。

(当方が準備するW35×D35×H6

5cmの台に必ず自立すること)

○作品重量 面荷重25kg以内。(点荷重

の場合は荷重を分散できる厚さの敷板

を留意すること)

○応募点数 制限なし。

○応募料 1点につき6千円、以降1点増すごとに3千円加算。

その他の注意事項

(1) 展示上危険を伴わない作品であること。設置、移動に耐えること。

(2) 2個以上の部分で構成される作品は図面又は写真を添えること。

(3) 共同制作の場合は、全員について応募目録(又は別紙)に必要な事項を記入の上、連絡先1名を明示すること。

(4) 一般作品審査のみ野外展示作品の応募を認める。(1mにつき2t以内で総重量5tまで。野外展示場水勾配1/100)

(5) 軽量の宙吊り作品は搬入場所セットアップできる。(制作作業は不可)

(6) 組作品の展示に際し、スペースデザインという性格上、作者との話し合いの上で構成等を一部変更する場合があります。

(7) 宅配便搬入については、谷中田美術棟に問い合わせること。

(8) A、B両審査にわたる応募も可。サイズ、応募料などの条件は審査ごと。

#### ◇付加事項

〈作品の取扱い〉応募作品が他の作品を破損するおそれがある場合は、搬入を受け付けないことがある。

〈応募料の支払〉8月25日(水)までに協会指定の用紙にて郵便振込とする。なお、やむを得ない場合に限り搬入日に現金にて受付ける。(一度振込まれた応募料は返金されないので注意のこと)

〔駐車場〕搬入時の駐車は2時間まで可能。車両の入館は8時30分〜20時まで。車両の大きさは、高さ3・8m、幅2・5mまで。入館時に届出書に記入する。

### \* 展覧会情報 \*

◇本年度、74回展は国立新美術館において9月15日(水)を初日として開催されます。21日(火)は休館となります。

◇新作家賞受賞者には、賞牌として彫刻部会員細谷泰茲氏の作品が授与されます。授賞式は9月15日(水)12時30分より国立新美術館講堂にて開催します。

◇懇親会は、展覧会初日の9月15日(水)、各別に行います。詳細は搬入時、または通知の際にお知らせします。

◇各部企画  
各部で開催の意見交換の場、制作の場にあつてご参加下さい。

#### 〔絵画部〕

・オープントーク 絵画展示室

9月15日(水) 14時30分〜16時30分

・ギャラリートーク 絵画展示室

①9月18日(土) 13時〜16時

②9月20日(祝) 13時〜16時

・恂三の制作公開とワークショップ

「簡単！感動！すぐできるモダンテックニック」

講師 渡辺恂三(絵画部会員)

参加者が作品を制作し、終了後会場内に展示します。定員30名

9月19日(日) 13時〜15時

#### 〔彫刻部〕

・ギャラリートーク 彫刻展示室

9月19日(日) 14時〜16時

森林保護運動と彫刻/ポリビア国際彫刻シンポジウムに参加して・会員活動報告と展示

#### 〔スペースデザイン部〕

・親と子のワークショップ 3階研修室  
「しんぶん紙でイスを作ろう!!」

9月20日(祝) 14時〜16時

講師 齋藤 学(SD部会員)

定員20組

◇74回展の全出品作品をカラー図版で掲載した図録を発行します。

◇74回展図録(今回から出品目録なし)

編集発行 新制作協会

入選者には図録負担金をお願いします。

◇74回展入場料

一般券八〇〇円/学生無料

#### ◇巡回展開催日程

\*第74回新制作絵画広島展

会期 10年10月12日(火)〜10月17日(日)

休館日なし

会場 広島県立美術館・県民ギャラリー

\*新制作京都展(絵画・彫刻・SD)

会期 10年10月21日(水)〜10月31日(日)

休館日 月曜日

会場 京都市美術館

\*第74回新制作絵画展

会期 10年12月7日(火)〜12月12日(日)

休館日なし

会場 愛知県芸術文化センター

8階ギャラリー

●お知らせ 著作権等に抵触するような被害に遭われた方は、運営委員会に報告して下さい。

### 訃 報

▼田淵安一氏(絵画部会員)

二〇〇九年十一月二十四日、逝去されました。享年八十八歳。

▼吉田大象氏(彫刻部会員)

二〇〇九年十二月二日、逝去されました。享年八十九歳。

▼成田真澄氏(絵画部会員)

二〇一〇年一月八日、逝去されました。享年八十八歳。

心よりご冥福をお祈りいたします。

#### ◇新制作協会eメールアドレス

新制作協会の事務所でeメールが受けられます。ご利用下さい。

webmaster@shinseisaku.jp

会報編集委員 絵画部・小島隆三

彫刻部・大田雅代 SD部・中野 威

◇題字 猪熊弦一郎 (吉國写植室)